

## 教職課程科目「学校体験Ⅰ」の現状と課題

Current situation and issues about “Practical Study of School Education”

亀田夕佳(Yuka KAMEDA)

はじめに

愛知淑徳大学教職課程では、2011年度に「学校体験Ⅰ」を開講した。この科目は、従前の教職課程科目のように教員免許取得に関わるものではないが、本学の教員養成において重要な位置づけを果たすことが期待される。ここでは、2011年度の状況と課題について述べる。

### 一、科目設置の目的

2008年1月の教育課程に関わる中央教育審議会の答申で指摘されたように、教育現場での体験やボランティア活動による「実践的指導力」が教師に必要とされている。本学では既に教育学科や英文科によって、体験に重きを置いた科目が設置されているが、今回、全学的な取り組みとして「学校体験」を開講することとなった。実際の現場で活動することにより教職に対する理解を深め、教師になるための準備期間である大学生活のあり方を見直す契機とさせることを大きな目的とする。科目の詳細は以下である。

### 二、2011年度開講「学校体験Ⅰ」について

#### 1) 科目の概略

科目名	学校体験Ⅰ・Ⅱ
対象学年	2・3年次
開講期	通年
単位数	2単位
活動時間数	45校時間以上
単位認定	合または否

#### 2) 単位認定までの流れ

① 説明会	・科目についての説明を行い、計画書(A)を配布。
② ガイダンス	・学生は計画書(A)を提出し、履修登録を行う。 ※計画書提出までに活動先を決定することが望ましい

③活動期間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生は日報（B）を作成。10校時ごとに提出し、大学で教員の指導を受ける。</li> <li>・現場の責任者から確認印表（C）にサインをもらう。</li> <li>・半期に一度ずつ情報交換会で活動状況を報告する。</li> </ul>
④活動の終了	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2月第2週をめどに活動を終了し、日報（B）、確認印表（C）と共に報告書（D）を提出する。</li> </ul>
⑤単位認定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画書（A）、日報（B）、確認印表（C）、報告書（D）をもとに、単位を認定する。</li> </ul>
⑥体験発表会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生は次年度のガイダンスの際に、後輩に向けて一年の活動を発表する。</li> </ul>

### 3) 2011年度の履修状況

履修人数	以下の5名	
	A 2年 男子	日進市日進東中学校
	B 2年 女子	名古屋市日比津小学校
	C 2年 女子	尾張旭市三郷小学校
	D 3年 女子	日進市赤池小学校
	E 3年 女子	常滑市常滑中学校

### 三、活動先の決定について

活動先決定の経緯を示すと以下のようになる。

	活動先	活動先決定の契機
A 2年 男子	日進市日進東中学校	日進市教育委員会主催 学習サポーター
B 2年 女子	名古屋市日比津小学校	名古屋市教育委員会主催 ふれあいフレンド
C 2年 女子	尾張旭市三郷小学校	尾張旭市教育委員会に 直接交渉
D 3年 女子	日進市赤池小学校	日進市教育委員会主催 学習サポーター
E 3年 女子	常滑市常滑中学校	常滑市教育委員会に 直接交渉

活動先は、学生が自主的に見つけてくるものとしている。上記Bの学生については、1年生から引き続いての活動であったが、他の4名は「学校体験I」の履修のために活動先を開拓してきた。多くの自治体で「学習サポーター」のようなボランティア活動を奨励しているため、学生が活動を行うことについては、当初から前向きに受け入れて下さる自治体が大半だったが、「単位認定」に関わることから、履修登録から単位認定までの流れについて問い合わせがあったため、日進市、常滑市の教育委員会には説明に赴いた。尾張旭市については、学生自ら説明し、大学からは後日電話で挨拶を行った。

後の「五、今後の課題」においても触れるが、こうした科目を設置し、単位認定を行っている大学は少数であるため、学生が安心して活動するためには、大学として各自治体に丁寧に説明し、理解を得ることが必要である。

#### 四、活動時間および活動内容について

2011年度に履修した5名について、具体的な活動時間および活動内容は以下である。

	活動先	活動日数	活動時間
A 2年 男子	日進市日進東中学校	26日	122時間
B 2年 女子	名古屋市日比津小学校	19日	81時間
C 2年 女子	尾張旭市三郷小学校	12日	66時間
D 3年 女子	日進市赤池小学校	18日	72時間
E 3年 女子	常滑市常滑中学校	22日	141時間

※活動日数及び活動時間は、報告書提出時における累計数である。

学生A 毎週火曜日の午前中に活動。初日は玄関、職員室の掃除を行ったが、体育教員志望であることから、2回目以降は体育授業に参加させて頂いた。1限から4限の授業は、担当する教員が異なることから、同じ授業内容であっても多種多様の取組み方があることを学ぶことができたようである。授業以外には、合唱コンクールや体育祭の練習や準備、定期試験の監督などにも参加させて頂くことができ、授業以外の教員の仕事について、認識を深めたとのことである。

学生B 毎週金曜日の午前中と給食の時間まで活動。前期は1～2限を2年1組、3～4限を2年2組を担当し、後期は週ごとに2年1組と2年2組を交互に担当させて頂いた。授業以外には店舗見学などの課外活動にも参加させて頂いたとのことである。同学年の異なるクラスに関わることができたため、クラス担任の指導方法の違いがいかにクラス経営を支えているかを学ぶことができたようである。また、ADHDの子どもと接し、さまざまに悩み、考えることができた。本学生は中高免許を取得予定であるが、これまでの体験を通して、小学校教員を志望しており、

来年度は小学校の資格認定試験に挑戦するとのことである。

学生C 毎週水曜日の午前中 1～4 限と給食の時間まで活動。1 年 1～3 組と 2 年 1～3 組を毎週順番に 1 組ずつ担当させて頂いた。合計 6 組に関わったことから、多くの先生方のさまざまな取り組みについて学ぶことができた。当該学生の報告書には、具体的な事項について、各先生方がいかに工夫を凝らしておられるかが感動をもって語られている。固定したクラスでの活動ではなかったため、先生方や児童との関わりにおいては、苦勞したようであるが、校長先生が小学校時代の恩師であったこともあり、暖かなご助言を頂くことができた。本学生も学生Bと同様に、来年度の小学校資格認定試験を受験する予定である。

学生D 毎週木曜日の午前中に活動。年間を通して 3 年 1 組の 40 人学級を担当させて頂いた。固定したクラスでの活動であったため、ギャングエイジと呼ばれる 3 年生が目を追うごとに活発になっていく様子を学ぶことができ、子どもへの対応が個々に即したものであるべきことや、学級経営の難しさについて実感したとのことである。資格認定試験の受験には至らなかったが、活動を始めて、小学校の教員を志望し、将来機会があれば積極的に携わりたいとの希望を持っている。

学生E 毎週木曜日に終日活動。2 年生の英語の授業とソフトボールの部活、及び特別支援学級に参加させて頂いた。中学の英語の授業であることから、具体的には、予習のチェックや単語テストの採点も担当し、恵まれたことに、学生ながら職員室の机を使用させて頂き、授業まで行わせて頂くことができた。活動当初は、先生方にどのような立場で活動しているのか認識して頂くことができず、悩んだこともあったが、誠実かつ積極的に活動することにより、時間をかけて信頼関係を築くことができたようである。部活動の補佐では、生徒とぶつかり合うことあったが、そうした経験を通して「教員」としてどうあるべきかを考えることができた。

## 五、今後の課題

2011 年度開講の「学校体験 I」について、科目設置の目的から具体的な活動内容について辿ってきた。履修した 5 名の学生は、活動を通して現場でなければ体験しえないことを学び、改めて教員という職業の素晴らしさを認識している。学校現場での活動を単位化するという、本学の取組については、2011 年 1 月 24 日に愛知県教育委員会により開催された第 2 回大学と県教育委員会との連携会議において、「愛知淑徳大学における「学校体験」の取り組み」として事例発表を行った。

最後に今年度の指導を通して気づいた点を 3 点述べてまとめてみたい。

### 1) 活動先の決定について

本科目については 2011 年度の開講にあたり、2010 年度に説明会を行った。その際の

参加学生は約 80 名であったが、大半は履修までに至らなかった。履修に至らなかった原因は以下に大別できる。

- 1、活動内容を特定の部活動の指導等に限定して考えており、「活動先で必要とされていることを行う」という自覚がなかったため。
- 2、履修登録の時期と自治体の活動先が決定する時期にずれがあり、履修登録の時期に活動先を決定できなかったため。

1 点目については現場での活動の意義について学生に丁寧に説明する必要があるだろう。中高の免許を取得し、教育実習、採用試験でも中学高校を視野に入れている学生の中には、小学校での活動に意欲を示さない学生が多い。しかし、中学高校の教員になるのであればなおさら、生徒が小学校時代にどのような時間を経過して中学生や高校生になってくるのかを知る必要がある。今年度活動した学生の 5 名のうち 3 名が小学校教員を志望するように、自らの新たな可能性に気付く場合もある。

2 点目については、2012 年度からは教育実習と同様に活動先が決まらなかった場合は履修の取り消しを行う科目と認めて頂いたため、活動を希望する学生は、3 月の履修登録を行ったのちに、4 月からゆっくりと自治体に相談することができるようになった。また、第 2 回大学と県教育委員会との連携推進会議において、2012 年度より「あいちの学校連携ネット」が整備され、個々の自治体でのボランティア募集情報が広く公開されることが報告された。このように、次年度以降は活動を希望する学生の意思に即した形での履修が可能となる見込みである。

## 2) 活動中の指導について

活動中は 10 校時ごとに日報を提出し、教員の指導を受けることとした。45 校時以上で単位認定としたため、最低 5 回の指導を受けることとなる。毎回 1 時間程度の指導となったが、場合によっては短くなったり、長くなったりした。「四、活動時間及び活動内容について」で示したように、学生によって 66～144 時間とさまざまであり、時間数に応じて指導回数に差が生じた。

活動中には前期と後期で一度ずつ「情報交換会」として意見交換の時間を設定した。情報交換会では、活動内容の報告と工夫した点、悩んだ点等を話し合ったが、同じ活動をしている学生同志の意見は、自らの学びを深めるのに役立つものであったと考える。

また、活動中には、教職・司書・学芸員教育部門所属の江坂栄子先生にも、さまざまにご教示頂くことができた。長年の確かな経験から発せられる意見は、学生たちにとって、大変心強い指針となったと確信している。次年度以降、履修学生が増加することが予想されるが、現場での経験を豊富に有する先生方のご協力を頂き、よりよい指導に努めたい。

## 3) 活動後の指導について

活動後は報告書を提出し、次年度のガイダンスの場において、後輩に向けて活動発表会を行う。報告書は2800字以上としたが、ほとんどの学生が一度目の提出では、満足のきちんとした内容を書くことができなかつたため、添削を行った。次年度は、添削指導の時間を予定して早めの提出を促したい。また、現段階では、何も指導していないが、活動発表会に向けてはプレゼンテーションの指導も必要となると思われる。自らの経験を自らの言葉で積極的に語るには、改めて自分の行いを見つめる過程が必要となる。活動後の指導では、活動で得た知見を学生自らが実感を以て説明できるまでに鍛えることを目指したい。

おわりに

教育実習の前段階において、学校現場で活動し、多様な教員の仕事の実際を学ぶことの意義は大変大きく、学びが確かに学生の力になっていることは、彼らのモチベーションの高さが示してくれている。このような学びを実現するためには、受け入れ先の多大な理解と支援がなければ不可能であったはずである。教員志望への熱意はあっても、まだまだ未熟な学生を温かく受け入れて下さった教育機関に改めて感謝している。

大学としては、学生の活動が誠実に果たされるよう事前指導、活動中の指導、活動後の指導にわたってきめ細やかに行う必要がある。これらの指導は、平常授業以外の時間帯で行うこともしばしばあり、教員側の労力と手間が必然的に要求されるものだといえる。学校現場での体験に対して単位を認める大学は日本全国では他にもあるが、活動中に教員が指導を行う例はほとんど見当たらない。幸い本学は、教職への志望を支援する教員及び現場での経験が豊富な教員が多数奉職しており、教員を目指す学生を丁寧に支援する基盤に恵まれている。今後は、そうした教員が個々の能力を有効に発揮するシステムを構築する必要があるだろう。

〈参考文献〉

- ・中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について(答申)」、2008年1月17日。
- ・豊澤弘伸、狩野克彦、松浦光和「教員養成における「体験」活動に関する一考察」、宮城学院女子大学発達科学研究、第10号、2010年3月。
- ・全国私立大学教職課程研究連句協議会 報告書『現場体験型教員養成の実態と課題』、全国私立大学教職課程研究連絡協議会、2011年5月。